

自分らしく生きる



LGBTQなどの性的少数者(性的マイノリティー)を表す言葉は、近年、新聞やマスコミなどでよく取り上げられるようになりました。「私たちは、存在していることをただ認めてほしいだけです」この言葉を聞いて、皆さんは何を感じますか？これは、ある性的マイノリティーの人から私たちに投げかけられた言葉です。この言葉を聞いたときに、これまでの社会がどんなに生きづらく、つらい思いをされてきたのか想像することができないのではないのでしょうか。皆さんも一緒に性の在り方について考えてみましょう。

●なぜ偏見や差別が生まれるのか

偏見や差別が生まれる主な原因は「知らないこと」と言われています。人は自分が知らないこと、理解ができないことに対して、無意識に壁をつくってしまうことがあります。この「見えない壁」が、自分の近くに来たときに偏見や差別として現れ、ときに周りの人を傷つけてしまいます。

●性の要素

性はひとくくりにして考えられがちですが、性にはさまざまな要素があります。性的マイノリティーの人たちだけでなく、そうでない人たちも、性の在り方は人の数だけあります。それぞれの性の在り方の違いが大切なのです。

●町の姿勢

令和3年10月に施行した「大津町パートナーシップの宣誓の取り扱に関する要綱」では、性的マイノリティーの人たちが、法律に基づいて婚姻届が出せなくとも、誰もが大切なパートナーや家族とともに、その人らしく人生を歩んでいけるよう、多様な生き方を認め、応援していきます。

●地域や職場での理解

パートナーシップ宣誓制度は、すべての人がその個性と能力を発揮できる社会を目指しています。これは当事者だけでなく、地域社会において多様な生き方を認め合うことが、今後の町の発展に大きく関係していくからです。制度を導入したからといって、それだけで何かが変わるものではありません。地域や職場の理解が必要です。身近なところから誰もが自分らしく生きられる社会をつくっていきましょう。

役場でも多様な生き方を認め合える社会を築くために、性的マイノリティーに関しての研修を行いました。研修の講師を務めた「くまじ」の森あいさん、こうぞうさん、くみさんに話を聞きました。

「いない」ではなく「気付いていない」だけ

「性的マイノリティーの人が身近にいるなら、今までに会ったことがあるはず」そう思われる人は多いのではないのでしょうか。性的マイノリティーは見ただけではなかなか分からないことが多いと思います。「いない」、「会ったことがない」ではなく、「気付いていないだけ」が正確です。

性的指向や性自認について、人口を代表する形で全国的に調べたデータはなく、「人口の何パーセント」と断言することはまだ難しい状況です。信頼できる調査が少なく、基本的なデータすらないというのが、今の日本でLGBTQなどの性的マイノリティーが置かれている状況を表しているとも言えます。

ただ、性的マイノリティーの人が多くいればその人の人権は尊重されるが、少なければ尊重しなくてもよいということではありません。パーセントでもありません。



もり 森 あいさん
弁護士
日本弁護士連合会
LGBTの権利を守るPTJメンバー

一人じゃない、仲間はある

パートナーシップ宣誓制度を導入した自治体は熊本市に次いで熊本県内で大津町が2番目というところで、性的マイノリティーに対して積極的に取り組んでいる町という印象を持ちました。

以前、パートナーシップ宣誓制度を議題に取り上げていた町議会を傍聴しました。隣に座っていた高齢者の人がパートナーシップ宣誓制度を導入する賛成意見にうなずいている姿を見て、性的マイノリティーに対して受け入れられているとほっとしました。高齢者の人が町の動向に関心を持ち、町と住民同士の距離が近くてうれしかったのを覚えています。

パートナーシップ宣誓制度を導入することで、住民の人たちに性的マイノリティーの人が共に暮らしていることを理解してもらいやすくなるのかなと期待しています。

くまじメンバー
くみさん



気付いてほしい、おかしな視点に

パートナーシップ宣誓をする人は実際に少ないのではないかと思います。ただ、パートナーシップ宣誓制度ができたことで、隠れて生きている性的マイノリティーの人たちにとっては認められた証になるのでとても励みになります。

子どもたちが幼い時に、性的マイノリティーに理解がある町だと知ること、自分が住んでいる町ではおかしなことではないんだなって感じることで、親御さんにも子どもにも喜ばれる町になると思います。自分が性的マイノリティーと気付いたときにそれがおかしなことと思われなような将来に希望が持てる社会になるきっかけになると思います。

性的マイノリティーを理解し、サポートしたいという人は、同性婚に賛成している人を応援して積極的に声を上げてほしいです。大多数の立場

くまじメンバー
こうぞうさん



くまじの活動

- 熊本でLGBTQなどの性的マイノリティーも生きやすい、暮らしやすい場所にするために活動している。
- 行政に対する働きかけを中心に活動。最近では、熊本県内の選挙管理委員会に対するアンケートを実施。
- 公開学習会を、偶数月の第3月曜午後7時から開催。普段は熊本市内で開催。最近はオンラインでの開催をしている。

LGBTQとは…

L Lesbian (レズビアン) 女性として女性が好きな人	G Gay (ゲイ) 男性として男性が好きな人	B Bisexual (バイセクシュアル) 男女とも好きになることがある人	T Transgender (トランスジェンダー) 生まれたときに割り当てられた性別とは異なる性を生きたい、生きる人	Q Questioning (クエスチョニング) 好きになる性別や自分の性別が分からない人
--	---	---	--	---

LGBTQは、性的マイノリティーの総称としても使われることがあります。性のあり方は人の数だけあり多様です。

パートナーシップ宣誓制度

LGBTQなどの性的マイノリティーの人たちの多様な性の在り方を認め、全ての人々が自分らしく活躍できる町を目指して、パートナーシップ宣誓制度を10月1日から導入しました。パートナーシップ宣誓制度とは、一方または双方が性的マイノリティーである二人が、お互いをパートナーとして相互に協力し合う関係であることを、町に対して宣誓するものです。

悩みや相談窓口

- よりそいホットライン
どんな人の悩みにも、寄り添って一緒に解決する方法を探します。音声ガイダンスが流れるので、相談したいことを選んでください。
☎0120(279)338 (24時間通話無料)
- 問い合わせ 役場人権推進課 人権推進係
☎096(293)0863